平成29年度第９回伊勢市総合計画審議会　議事要録

◆日時　　平成30年2月23日（金）19：00～20：40
◆会場　　伊勢商工会議所　5階　大ホール
◆出席委員
山本　　誠委員、竜田　和代委員、池田ミチ子委員、酒徳 雅明委員、岩﨑 良文委員、
西村　純一委員、西村　幸泰委員、浅野　　聡委員、新田　　均委員、重松　　玲委員
◆欠席委員
森　裕美委員、美濃 松謙委員、永井 正高委員、山本 康史委員、三村 和也委員
◆出席職員
情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課課長補佐、企画調整課主査2名】
環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事、清掃課長】
教育委員会【教育事務部長、教育総務課長、学校統合推進室長、学校教育課長、学校教育課副参事、社会教育課長、文化振興課長】
健康福祉部【健康福祉部長】
危機管理部【危機管理部長、危機管理課長】
消 防 本 部【総務課長、総務課副参事、消防課副参事】
産業観光部【産業観光部長、商工労政課長、同課副参事、農林水産課長、農林水産課副参事、観光誘客課長、観光振興課長】
都市整備部【都市整備部長、都市整備部次長、都市整備部参事、交通政策課長、基盤整備課長、維持課副参事、建築住宅課副参事、用地課地籍調査係長】
上下水道部【上下水道部長】
総　務　部【総務部参事】

◆内容
（１）前回の振り返り
（２）第3次総合計画　基本構想・前期基本計画（修正案）について
（３）答申に向けての意見交換

◇会議録（要録）
以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておりませんので、ご了承ください。

〇第３次総合計画　基本構想・前期基本計画（修正案）について

●分野別計画

第５章、第７章
修正案にて、了承

第６章
・「第２節商工業」の、「この４年間で取り組む課題」に 62Ｂ「商店街等の地域産業」と言う表現があるが、商店街は商業集積を意味する言葉であるため、表現を再考願いたい。
→検討する。

それ以外は修正案にて、了承

第８章
修正案にて、了承

・「第１節行財政運営」の「重点課題の成果指標」で「伊勢市に自分のまちとしての愛着、魅力を感じていると思う割合」があり、調査対象が 15 歳以上と聞いている。総合計画全体を見ても、伊勢市に貢献したいなどの気持ちは、市の全庁的な取組として教育などとも連携して取り組んでいただきたい。

第２章
【第１節　学校教育】
・平成 28 年度の進行管理や、今回の総合計画策定に係る市民意識調査でも郷土のことを知る取組を教育に求める声があることを認識していただきたい。総合計画の「教育分野」の目指す姿は「郷土を愛し、夢と意欲を持ち未来を切り拓く人づくりのまち」であるので、第１節の「学校教育」の取組方針の「心豊かでたくましい子どもたちが育つ教育環境づくり」の前に、「地域を愛し、」という言葉を付け加えていただきたい。
→教育全体としての目指す姿を「郷土を愛し、夢と意欲を持ち未来を切り拓く人づくり」と位置付け、それを基にしながら、学校教育においては、子どもたちが「心豊かでたくましい子ども」に育っていくことを願い、その環境づくりに努めたい。最初に大きく位置付けていることをご理解いただきたい。

・第 4 節の「文化」の取組方針では、「郷土愛の醸成」という表現が入っているので、第 1 節の「学校教育」で「郷土を愛し」を外す理由にはならない。
→教育分野の最上位計画である「第 2 期伊勢市教育振興計画」でも、同じような体系になっており、それとの整合性の部分もあり、このような形でさせていただきたい。

・教育振興基本計画の上に総合計画があり、下位の計画に合わすのは筋違いである。

・現在、地域のことを知らない子どもが増えていると思う。海外では、自分のバックグラウンドを聞かれる機会もある。「伊勢」のことを知らないと言えない。個人的な意見であるが、「地域を愛し」という表現は入れたほうが良いと思う。

・教育分野の目指す姿と位置付け、教育全体に内容としてかかっているのであれば、特に繰り返す必要はないと思う。強調しすぎにはならないか。

・総合計画で目指す姿を実現するには、学校教育の部分でも取り組んでいかないと、子どもたちの心に根付いていかない。
現在の計画案の「学校教育」の内容では、どの市でも当てはまるようなものになっている。伊勢市としての特色が薄い。伊勢市の特色が前面に出るような形の方が良い。

・政府の教育再生実行会議の第 6 次提言では、教育に地域再生のエンジンの役割が期待され、小中学校等の教育機関では、地域の将来を担う子供を育てるため、郷土の先人、歴史文化を教え、郷土への理解、愛着、誇りや人として必要な倫理観を育む教育が必要であり、こうした教育を実践し、子どもたちの志を育むことができる教師の育成の必要性が書かれていることを踏まえたほうが良い。

⇒特に反対意見もないので「地域を愛し」という表現を入れていただくということでよろしいか（委員からの異議はなく了承）。

・国は、地方の人口減少、地域経済縮小といった課題を乗り越えるために、教育に地域を動かすエンジンの役割を求めている。現状認識として、そのような自覚を「学校教育」に持ってほしい。そういった意味でも「現況」は、郷土の視点、主体的に人口減少（社会減）に歯止めをかけようとする姿勢を踏まえて記載されるべき。
→首相の諮問に対して中央審議会や、教育再生実行会議などから現代社会の教育の問題について、様々な提言がなされ、それが生かされる形で学習指導要領の内容に繰り返し反映されている。学校教育で子どもたちに教育を行っていく大本には学習指導要領があり、逸脱できないものと考えている。今回の総合計画案は、その学習指導要領の範囲の中で、内容を踏まえ、方向性を示させてもらっている。

・教育が地域再生のエンジンとなる動きはこれから本格的になり、それを先取りして取組を進めてほしい。ところが「学校教育」の現況には、「持続可能な社会の創り手」、「世界に目を向け」といった２つの視点だけしかない。地域の担い手に育成するという視点からの分析が現況には必要である。

⇒付け加えていただきたい（委員からの異議はなく了承）。
→課題解決の方向性の中には、そのような内容をこれまで修正するなかで、踏まえてきているので、それらと整合させていくということを含めて、ご意見として承らせていただきたい。

・教育振興基本計画にも、「地域の一員として、地域を担い、発展させようとする態度を培っていく」とあり、その取組の成果が明確になるような指標を、節の目指す４年後の数値指標か「重点課題の成果指標」に加えていただきたい。
→今回の修正案で示した成果指標は、地域を担い発展させていく一員として、地域に関心があるかどうかを示すものとして、教育振興基本計画の「郷土教育の推進」で明示した指標を活用したい。

・「伊勢市を担いたい」という気持ちが育ったことが分かるような指標や、「郷土の教育を受けて地域を担いたいと思うようになった」など、成果が明確に見える指標では不都合な理由があるのか。
→郷土教育については、伊勢市として統一的に学ぶもの、またそれぞれの地域で学ぶなど様々な手法が考えられる。多面的な部分で成果を推し量る指標として見ることができ、またこの指標は全国学力・学習状況調査の設問で、全国的な一般化された指標であり、様々な地域と比較できることから、この指標で進行管理をしたいと考える。

・その指標を否定はしないが、成果を直接的に推し量る指標を伊勢市独自に設定した方が良いのではないか。差し支えがなければ設定していただきたい。
→学校教育では「郷土教育」の時間・教科はなく、社会科や総合的な学習など様々な教育活動全体を通じ、それぞれの学校区ごとの特色ある身近に関わる大人などを見て、子どもたちの心に残り、地域に誇りを持つものと思う。子どもたちには、特定の何かをしたかではなく、様々なものから学び、心に残ったものから地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもたせることがスタートと考える。単に「伊勢市が好きですか」と聞くよりも、伊勢を好きになることにつながる資質的なものが子どもの時から育ったかどうかを推し量る指標だと考え設定した。

・郷土を愛するための教育は１つではなく、様々な工夫が必要だ。学校教育も時間が限られていることから、この課題を全庁的な課題で取り上げるべきだ。市民の中には、学校の先生に時間が無いなら、自ら関ってそのような気持ちを育てようと思う方はたくさんいると思う。学校教育が市民に開かれて、手を携えて取り組めば素晴らしいと思う。ただ、社会のことに関心がありますかは、あまりにも間接的すぎる。
→道徳の授業では、道徳の徳目に触れながら、子どもたちが心に感じる、そして自分の行動の価値基準を高めていくこととしている。「郷土を誇りと思いますか」と聞くと、子どもたちはそのように思い、答えなければいけないと思ってしまうのではないか。

・それは「自分には良いところがあると思いますか」という質問でも同じで、郷土についての質問をしない理由にはならない。ただし、「郷土の良いところを知っていますか」「郷土によいところがあると思いますか」など、もう少し柔らかい言い方で表現できると思う。検討されたい（委員からの異義はなく了承）。

→表現内容の修正については、この場で決めさせていただくことは難しいので保留させていただきたい。

【第４節　文化】

・第４節「文化」では、伊勢の文化芸能、特に神宮にかかわる行事などを積極的に担っていこうとする若者を育成するという視点が見えず、そのための取組、その成果を測る指標を入れるべきである。課題解決の方向性で、「伊勢市固有の文化、民俗芸能などに市民が触れる機会を設け」とあるが、「伊勢の文化芸能、特に神宮にかかわる行事などを積極的に担う」という意思を育むことを目的した内容が記載されるべき。

→子どもたちへの体験講座として、学校へ講師を派遣するなど、伝統文化を知ってもらえるような機会を設けており、後継者の育成につながるような取組を行っている。

・成果指標などは、地元の行事を知っている、参加したことがあるなど、実際に文化に触れているような書き方にした方が良い。

・郷土の文化を考えると「神宮」は外せない。神宮に関係するお木曳行事やお白石持行事は、伊勢市の中で観光面から見ても大きなファクターになっている。伊勢の市民なのによく知らない人もいるので、ここに盛り込んでいただいても良いのではないか。

・民俗行事の継承に対する危機感が計画のどこかに記載されるべきである。

・お木曳行事やお白石持行事のときに地域が元気になり、一体となり、伊勢市の特性が現れる。民俗芸能だけに縛られるのではなく、伊勢神宮の行事に合わせた文化の記載が必要であると思う。

⇒神宮にかかわる行事、その継承をこれから課題としていくことが分かるような指標を入れていく方向性で修正をお願いしたい（委員からの異議はなく了承）。

・今回の審議会を受けての修正に関しては、審議会の会長とその分野の委員が教育委員会関係者と調整する。⇒了承

〇答申に向けての意見交換

・審議会から答申を出す際、市長に対し添える意見等について、これまでに審議会で出た「総合計画」の啓発、浸透をするための取組を進めるなどの意見を入れて作成して

いきたい。

〇今後について
・今回の意見を踏まえて総合計画の案を修正し、パブリックコメントにかけてさせていただく。またその期間には、伊勢市の４つの地区（伊勢・二見・小俣・御薗）の地域審議会において意見をいただくことを予定している。その後、最終的な案を審議会に示して答申をいただく予定である。